

曹源寺略縁起

曹洞宗

本尊 薬師琉璃光如来

脇侍 日光菩薩・月光菩薩

東光山 曹源寺

十二神将

寶頭盧尊者

古くは宗元 または宗源の文字を用いていました。現在の曹源という文字は、江戸期再興の折に曹洞宗に属したことからつけられました。東光とは、本尊・薬師如来のおわす東方浄瑠璃浄土の光明の意ですが、古くは三秀山と呼ばれ、穀物の苗・華・実の三つが共に秀でて成熟することに因んでつけられたようです。

行基菩薩草創を伝える古刹で、その創建は遡って奈良時代後期(天平年間)と推定されています。寺域は、県立横須賀高校の用地を含む一町(約109メートル)四方の広さだったといわれ、伽藍規模も相模国分寺に倣ったもので、相模国内でも有数の一大寺院であったろうと考えられています。また金堂・三重塔・僧坊そして高台に薬師堂(現在の本堂の場所)などの存在が確認されることから法隆寺もしくは法起寺様式の伽藍配置の偉容を誇っていたと考えられています。



沿革

その後、平安時代から鎌倉時代にかけて当山の法灯を外護したのは三浦一族で、特に建久三年(一一九二年)八月九日、源頼朝が御台所(北条政子)の実朝出産に際して、当山を含めた十五の神社・仏閣に神馬を奉納、安産祈願の誦経を修めたとき、この執行に当たったのが地頭三浦義澄であったと『吾妻鏡』にあります。また、治承年中(一一七七〜九年)に、頼朝が怨敵退治の修法に宗元寺の僧侶を請し、長日に渡る護摩供養を為し国家泰平・武運長久を祈ったとあったり、信心篤き三浦一族を通じて源家との関わりは深かったと思われれます。

そして、元弘元年（一二三二年）元弘の変において、兵火を被り創建以来の大伽藍は、奥の院である薬師堂を除いて焼失したと「新編相模風土記」にあります。根拠は不明です。また薬師堂も室町時代に火災にあったことがわかっています。しかし、鎌倉時代後期の木造十二神将が現存していることから、何らかの形で存続していたと推定されます。

時代は下って天正年間、この地が徳川の知行するところとなり代官長谷川七左衛門長綱が由緒あるこの寺の荒廃を嘆き慶長四年（一五九九年）二月二十二日寺領三石を寄進し、靈屋傳英禪師を請じて寛永五年（一六二八年）完全復興を遂げました。この機に徳川家の信篤い曹洞宗に編入し宗源寺から曹源寺に改称しました。その後昭和七年、現在の寺の様式に改修再建し、今に至っています。

曹洞宗 ▼ 本尊 釈迦牟尼仏

高祖 道元禪師

太祖 螢山禪師

本山 ▼ 福井 永平寺

鶴見 総持寺



神奈川県指定重要文化財

木造十二神将立像

昭和四十一年七月十九日指定

薬師十二神将、十二薬叉大将とも呼ばれ、薬師如来が衆生に降りかかる数々の災いや苦悩を除いて、ついに悟りを得させるための十二の願い、すなわち①光明普照②随意成弁③施無尽物④安立大乘⑤具戒清浄⑥諸根具足⑦除病安楽⑧転女得仏⑨安立止見⑩苦惱解脱⑪飲食安楽⑫美衣満足を護持するとともに、薬師如来の信仰者を守護することを誓った薬師如来の眷属です。

後に十二という数から、十二獣の説（閻浮提外の四方の海中にある山に住して、順番に交代して閻浮提の内を遊行し教化するといふ鼠・牛・師子・兔・竜・毒蛇・馬・羊・橛猴・鶏・犬・猪の十二の獣）と結びつけられ、さらに十二支に変化して昼夜十二時の護法神とされました。



曹源寺の十二神将は、鎌倉後期の作と考えられていましたが、最近の研究では作風や彫技、および胎内銘文から鎌倉初期の作ではないかという説があります。また北条政子の寄進で運慶作のものとして記した文書もありますが定かではありません。ですが、慶派正統仏師の作であることは間違いないでしょう。

像形は通例の神将像と同様、天衣甲冑に身を固め、兜をかぶるか、鬘を結び、さらには炎髪にして武器を持ち、岩座の上に立っている姿です。材質はすべて檜材、玉眼入りの奇木造りで、昭和五十七年から三か年にわたり、京都・美術院国宝修理所によって完全解体修理が行われ復元されました。



毘羯羅大将

子神 六六・八cm
武器は玉斧(宣花斧)

招杜羅大将

丑神 八三・六cm
武器は直刀

眞達羅大将

寅神 八二・七cm
武器は三鈷

摩虎羅大将

卯神 七三・七cm
武器は三叉戟

波夷羅大将

辰神 八四・〇cm
武器は三叉戟

因達羅大将

巳神 九一・四cm
武器は倭刀

珊底羅大将

午神 八三・〇cm
武器は玉斧(宣花斧)

額爾羅大将

未神 八四・一cm
武器は矢

安底羅大将

申神 七四・七cm
武器は弓矢

迷企羅大将

酉神 八三・〇cm
武器は三叉戟

伐折羅大将

戌神 八二・七cm
武器は独鈷

宮毘羅大将

亥神 八三・一cm
武器は宝棒



古瓦と礎石・・・創建当時の曹源寺の姿を伝える重要な物証。瓦は布目瓦や忍冬蓮華文軒丸瓦など、礎石は伊豆石の自然石でこれらの発見により寺域と歴史が判明しました。

梵鐘・・・現在の梵鐘は、昭和二十四年

正徳元年（一七一一年）鑄造で三代目です。二代目は

で太平洋戦争の折、供出。初

代のものは鑄造年こそ不明で

すが、鎌倉期には標準時報用

として使用されていたそうです。

また武蔵坊弁慶がこの鐘

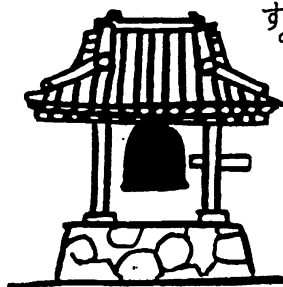
をかっいで東京湾を泳ぎ渡っ

たという伝説があり、現在は

東京の石町小学校の校庭に都

名所・天然記念物に指定され

ています。



拭眼石の伝承・・・唯庭上余一顆拭眼石為物平凡

病眼人將此石拭摩扶眼則縱如

朝日帶輕霞者微風吹太晴攸然

彷彿一点無翳也。

【訳】庭に拭眼石という丸石がある。

眼を病んでいる人がこの石を

手で拭い、眼をなでると霞の

かかった朝日にそよ風が吹い

て晴れ渡るようにぼんやりと

しか見えなかった眼が一点の

曇りもなく見えるようになる

という。
『三浦古尋録』

謎の伝承であり、どの石であるのかさえも不明

です。ただ本尊の薬師如来も眼病を治す「三浦薬

師」として有名であったことも合わせ、余程眼病

に対して靈験あらたかであったろうことがうかが

えます。

横須賀市公郷町 三・二十二

曹源寺

☎ 0468 (51) 0889